

大阪府感染症発生動向調査週報 (速報)

2017 (平成 29) 年 第 47 週 (11 月 20 日～11 月 26 日)

今週のコメント

～ インフルエンザ ～ 手洗い、咳エチケットが重要

定点把握感染症

「インフルエンザ 流行迫る」

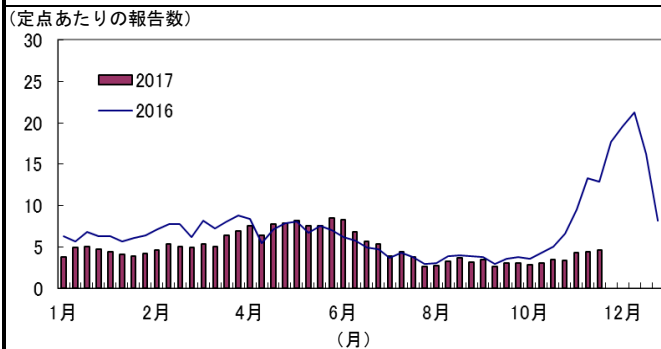
第 47 週は前週比 3.7%増の 2,121 例の報告があった。報告の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RS ウイルス感染症、手足口病、水痘の順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 4.6、2.0、1.2、0.6、0.5 であった。

感染性胃腸炎は前週比 3%増の 914 例で、南河内 8.8、中河内 7.4、大阪市西部 6.2 の順である。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 6%減の 407 例で、南河内・豊能 2.9、三島 2.5、堺市・大阪市南部 2.3 であった。RS ウイルス感染症は 15%増の 249 例で、南河内 2.0、大阪市西部・北部 1.8、泉州 1.7 と続く。手足口病は 2%増の 125 例で、中河内・三島 1.2 である。

インフルエンザは前週比 63%増の 240 例で、定点あたり 0.8 である。5 週連続で増加しており、大阪市西部 2.1、南河内 1.6、北河内 1.5 であった。

感染性胃腸炎



A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

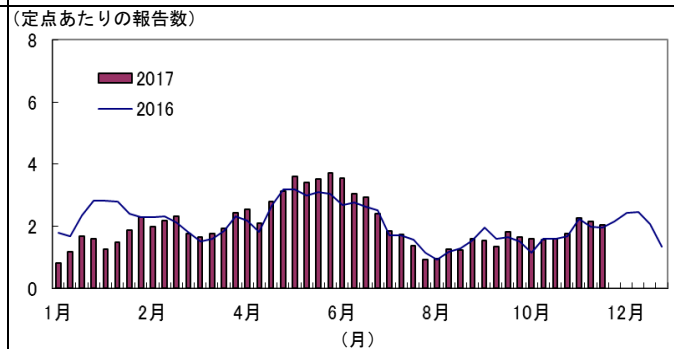


表 1. 大阪府小児科定点把握感染症の動向 (2017 (平成 29)年 第 47 週 11 月 20 日-11 月 26 日)

第 47 週 の順位	第 46 週 の順位	感染症	2017 年 第 47 週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2016 年 第 47 週の 定点あたり 報告数	2017 年 第 47 週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	4.6	3%増	12.9	1 歳_16%
2	2	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.0	6%減	2.0	5 歳-6 歳_25%
3	3	RS ウイルス感染症	1.2	15%増	1.9	1 歳未満_39%
4	4	手足口病	0.6	2%増	0.5	1 歳_26%
5	6	水痘	0.5	11%増	0.6	7 歳_20%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ 定点報告疾患)	0.8	63%増	1.3	10 歳-14 歳_24%

第 47 週のコメント

～ 梅毒 ～ 2017 年の国内の梅毒感染者は、1999 年以降、最も多く報告されています

全数把握感染症

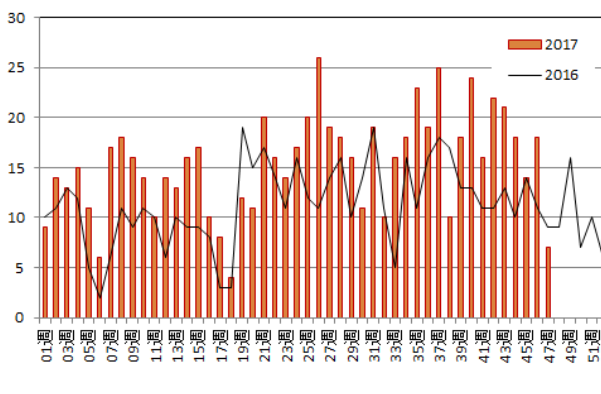
梅毒

国内の梅毒の感染者は、2010 年より増加傾向にあり、2017 年の報告数はすでに 2016 年を上回った。感染症法が施行された 1999 年以降、最も多く報告されている。梅毒は、性行為・オーラルセックスにより、生殖器、口、肛門の皮膚や粘膜の微細な傷口から菌が体内に侵入し感染する。また、妊娠時に胎児が胎盤を介して感染し、「先天梅毒」になることがある。梅毒は、適切な抗生物質の服用で治癒が期待できる。

[感染症疫学センターはこちらへ\(外部リンク\)](#)

[感染症の話\(国立感染症研究所\)](#)

(週別報告数)



(週)

表 2. 大阪府全数報告数 (2017(平成 29)年 第 47 週 11 月 20 日－11 月 26 日)

*) 注意 : この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります

3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 2 名 (中河内ブロック 1 名、泉州ブロック 1 名、府内累積報告数 162 名) 腸チフス 1 名 (大阪市 1 名、府内累積報告数 3 名)
4 類感染症	デング熱 1 名 (大阪市 1 名、府内累積報告数 19 名)
5 類感染症 (麻しん、風しんは除く)	アメーバ赤痢 2 名 (北河内ブロック 1 名、大阪市 1 名、府内累積報告数 112 名) 急性脳炎 2 名 (泉州ブロック 1 名、大阪市 1 名、府内累積報告数 39 名) 侵襲性肺炎球菌感染症 3 名 (泉州ブロック 2 名、大阪市 1 名、府内累積報告数 221 名) 梅毒 7 名 (豊能ブロック 1 名、大阪市 6 名、府内累積報告数 723 名)
結核 (2017 年 9 月分)	結核 新登録患者数 : 169 名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 81 名) (府内累積報告数 1443 名、内 肺・喀痰塗抹陽性 603 名)
麻しん、風しん	報告はありません

(2017 年 11 月 28 日 集計分)